

第2回函館市持続可能な町会運営に関する検討委員会 発言要旨

分類	内 容	発言者
業務のスリム化	たな卸しを町会だけで行うのは難しいので、たな卸しのやり方などの知識・経験を有する外部の人間が入り、町会と一緒に進めていくことが必要である。	丸藤 委員
業務のスリム化	たな卸しを行うには、他町会との交流や意見交換を進め、その中で自らの町会と他町会の業務を比較しながら考える方がよいのではないか。	上野山 委員
業務のスリム化	たな卸しとは、町会の活動のニーズと参加度を縦軸と横軸に落とし込んで見える化することで、大切な活動の位置づけを行うとともに、ニーズも参加人数も少ない活動の休止や廃止の検討を行う作業である。	酒本 委員
業務のスリム化	たな卸しを行うには、アンケートが望ましいが、アンケートの実施はハードルが高い。そのため、別の方法として町会の活動を並べ、役員が「いる」「いない」の評価をしながらできないかということのを他都市でやり始めている。	酒本 委員
業務のスリム化	自分たちの町会が1年間何をやっているかというマニュアルをつくることで、自らの業務を把握でき、また、そのプロセスの中で、無駄な活動も必ず見えてくる。	酒本 委員
業務のスリム化	多くの町会が共通して行っている活動について、市や市以外の団体が行っている、どのような支援を利用できるかという洗い出しも必要である。	菊池 副委員長
業務のスリム化	昨年、たな卸しを行った町会では、町会独自の事業は少なく、地区や市全体の会議が多く役員の負担になっているのがわかったので、似たような会議の集約ができないか考えた方がよい。	丸藤 委員
業務のスリム化	町会連合会の役員をやっていると、充て職にあたる可能性が高い。	中村(馨) 委員
業務のスリム化	業務のスリム化は、各町会によって温度差もかなりあるので、町会ごとに考えていく必要がある。	中村(馨) 委員
業務のスリム化	民生児童委員や国勢調査員の人材探しなど、町会に対する依頼が多い。	上野山 委員
業務のスリム化	町会役員は、町会以外の業務である民生児童委員や保護司を兼ねていることが多い。	中村(馨) 委員
業務のスリム化	町会連合会には9つの専門部があるが、これは各町会にある多様な専門部がある程度集約された結果と考えている。	中村(馨) 委員
業務のスリム化	市や関係団体から町会連合会を通じて依頼がある各種会議の委員は押さえているが、町会連合会を通さず直接依頼されることも相当数あるので、全体を把握することは難しい。	中村(馨) 委員
業務のスリム化	子育て世代は、スマホでいろいろな情報を入手できるので、回覧板を回すことにわずらわしさを感じている。回覧板は一例だが、これからは町会のデジタル化と併せた業務のスリム化を考えていく必要がある。	酒本 委員

分類	内 容	発言者
コーディネーター役 への転換	地域課題が多様化する中、町会がすべてを解決できる時代ではない。町会は、地域課題・ニーズを把握し、その課題に対応したノウハウをもつNPOなどをマッチングして取り組んでいくことがコーディネートと考える。	酒本 委員
コーディネーター役 への転換	「何に困っているかを知る上手」「頼み上手」「つなぎ上手」、この3つができると、コーディネートができると思っている。	丸藤 委員
コーディネーター役 への転換	コーディネーター役に転換するためには、外部にはどういう団体があるのか、また、どうい うことを頼めるのかを調べたら分かるように周辺環境を整備することが重要と考える。	奥平 委員長
コーディネーター役 への転換	コーディネーター論は非常に素晴らしいが、実態を考えると高齢の役員がコーディネートで できるのか非常に不安である。何か手助けする仕組みや組織といったものが必要になると考 える。	中村(馨) 委員
コーディネーター役 への転換	外部の団体を受け入れる場合、町会側もたな卸しをしてスリム化してからだと受け入れや すいので、同時進行で進めるのがいいと思う。	上野山 委員
コーディネーター役 への転換	町会が持っているノウハウは、他の町会でも利用できるのではないかと。町会の間での人材 交流、流動化、ノウハウの共有化みたいなことができれば、それも一つのコーディネート になると思う。	奥平 委員長
近隣町会との合併	現在、吸収合併に向けて動いている町会があり、市・町会連合会・アドバイザーが入り、 合併のノウハウづくりなども含めて進めているところである。	中村(馨) 委員
近隣町会との合併	町会と神社の関わりが深いところ同士の合併は難しい。また、町会名にプライドを持つて いる町会も多いので、合併後の町会名も問題の一つである。	中村(馨) 委員
近隣町会との合併	法律に定められている合併の手続き自体は簡単であるが、弁護士や行政書士など外部に依 頼する方法もある。	石郷岡 委員
近隣町会との合併	合併で難しいのは、法律の部分ではなく、町会名をどうするか、町会費が違う場合どうす るか、吸収される町会の余った予算をどうするかなどが考えられ、一般論として示すのは難 しく、ケースバイケースで対応していくしかないと思う。	石郷岡 委員
近隣町会との合併	個々の町会は、合併しないでホールディングス化のような形式をとり、必要な事業を連携 して行うという方法もある。小さな町会の運営が厳しくなってきたときに、どう救えるかとい う仕組みを考えておき、その選択肢の一つに合併も出てくると思う。	酒本 委員
近隣町会との合併	連合のケースを取ったとしても、町会の総会は必須である。そうなった場合、既存の業務 は減らず、連合の業務が逆に増えるという側面も考えられる。	石郷岡 委員
なり手・担い手の 確保	学校運営協議会を、町会が困っていることや行事の案内を発信する場とすることで、町会 の役割や活動について、保護者や学校も知ることができ、仮にその町会に入っていないか ても、活動を手伝いたいという人が出てくるのではないかと考える。	中村(和) 委員
なり手・担い手の 確保	担い手を探すときは、漠然としたイメージではなく、何をしてほしいか、週に何日手伝っ てほしいかなど、もっと具体的なイメージを伝えると意外に見つけやすいと思う。	丸藤 委員
なり手・担い手の 確保	自分がやってきたことのプライドが高く、せっかく見つかった担い手を嫌がってしまう高 齢の役員がいることも、問題ではないかと思う。	丸藤 委員

分類	内 容	発言者
なり手・担い手の確保	担い手がないという町会は、役員の周りにしか声をかけていないことが課題の一つと考える。これまで、いろいろな町会に関わりアンケートを取ったが、必ず協力者が出てくる。	酒本委員
なり手・担い手の確保	せつかく地域に貢献したい若い人が町会の役員会に来てても、役員から否定され辞めてしまったというケースもあるので、役員の意識を変えていくことも大事である。	酒本委員
なり手・担い手の確保	他都市では、担い手がおらず会計ができない町会のためにNPOをつくった事例がある。函館でも、そういう町会を下支えする組織というものを町会連合会で考えてみてはどうかと思う。	酒本委員
なり手・担い手の確保	「担い手」という言葉が、責任を託しているような感じになり、ハードルが高くなっているのではないかと思う。	菊池副委員長
なり手・担い手の確保	区域にこだわらず企業や学校に行事などの手伝いを依頼し、企業や学校も職員などを参加させることによって、参加した職員などは町会の活動を知ることができる。ある程度強制的に「関わる人を増やしていく機会を増やす」ということも必要だと思う。	菊池副委員長
なり手・担い手の確保	ジュニアサポーターという組織をつくり、お祭りのときに、中学生以上にお金の管理も含めて一つのブースを預けゲームコーナーをやらせようなど、大人になったときのために、町会＝楽しいという意識を植え付けようと思っている。	上野山委員
なり手・担い手の確保	町会のゴミ拾いに、これまでほとんど子どもは来なかったが、学校にポスターを貼り参加を促したところ、親と一緒に友達同士で参加するなど、参加者が増えてきている。	上野山委員
なり手・担い手の確保	町会役員のなかには、自分の思うとおりにならない担い手はいらないという人も多い。そこを解決、意識を変えないと、どんなに人が入ってきても意味がない。	中村(馨)委員
なり手・担い手の確保	町会活動に携わる場合、全てがボランティアではなく、例えば、パソコンで何か作業をするのであれば、その能力に見合った対価や評価といった観点も大事なと思う。	石郷岡委員
なり手・担い手の確保	町会では、役員に活動費を払ったり業務を外注したりすると、町会費の無駄遣いという声が上がりがり、なかなか難しいところがある。	上野山委員
なり手・担い手の確保	ボランティアに対価を払っていいかという議論もあるが、町会の中で、正当な対価を役員にどう払うかというのも大事な部分である。	奥平委員長
なり手・担い手の確保	地域に住んでいる大学生が、町会の役員になり、町会と協働でいろいろな事業に取り組んでいる事例がある。	奥平委員長
なり手・担い手の確保	函館には、高齢者大学があり、ボランティア精神が高く何かをしたい方々が多くいる。高齢者大学で、町会の人材を募る方法も考えられる。	奥平委員長